

# 絶対恋愛王政

作・坂本鈴

【登場人物】

神崎まりあ 生徒会会長・3年生  
天王寺あやめ 生徒会副会長・3年生  
早乙女えりか 生徒会書記・2年生  
近藤里美 生徒会会計・2年生

山崎明 アニメ研究会部長・3年生  
宮下純一 アニメ研究会副部長・3年生  
斎藤努 アニメ研究会・2年生  
石橋義則 アニメ研究会・2年生  
田中佑太 アニメ研究会・1年生

他の生徒たち

聖絢爛学園の全校集会で、生徒会による演説が行われている。  
神埼まりあ、天王寺あやめ、早乙女えりか、近藤里美の四人が舞台にいる。  
その中で、まりあが全校生徒に向かって演説をしている。

あやめ 聖絢爛学園のみなさま、ごきげんよう。本日は、生徒会からみなさまにお話があります。アニメ研究会の方々、ご起立いただけますか。

里美 山崎明さん、宮下純一さん、斎藤努さん、石橋義則さん、 田中佑太さん、

山崎、斎藤、宮下、石橋、田中、立つ。

えりか こちらの五名は、わが校で活動しているアニメ研究会の方々です。先月、全国アニメイズ選手権で優勝という非常にすぐれた成績を残しました。

五人、照れる。

まりあ 皆さまがご存じのとおり、わが聖絢爛学園は由緒正しい名門校。偏差値のみならず教養も兼ね備えた良家の子女が通う高校として、文部科学省から「スーパーハイソサエティハイスクール」に指定されている選ばれし高校です。

しかし先月、彼らアニメ研究会が全国アニメイズ選手権で優勝したことで、学外で「オタクの高校」というレッテルを貼られ、わが校の生徒が、他校の生徒に「オタク」とからかわれるという事件がおきるなど、わが校の品位はかつてないほど著しくおとしめられています。わずか四名の活動で、いままで私達がつちかかってきたわが学園の全ての名誉を汚されたのです。これは、決して許されることではありません。生徒会は、生徒たちの希望のもと、アニメ研究会に活動停止を命じます。

アニメ研 えー！！！

生徒達、拍手。アニメ研究会のメンバー、意外な展開に驚きを隠せない。

山崎 まちたまえ。これは不当だ。不当であり、陰謀だ。我々アニメ研究会に対する差別だ。

宮下 そうだ！

田中 そうつすよ！ほんとまじ意味わかんないつすよ。

石橋 アニメは世界に誇る、日本の文化。

斎藤 アニオタは恥じやない。お偉い方にはそれがわからんです。

まりあ これは決定です。生徒会はアニメ研究会に無期限の活動停止を言い渡します。

他の生徒たちも生徒会の判断を支持し、拍手。

アニメ研究会は自分たちは活動を停止しないと吠える。

石橋 やめろ！我々は活動を停止しない。

宮下 畜生ー！！！生徒会ごときにやらせはせん。やらせはせんぞー！

ガンダムの音楽。

一瞬の転換で、そこはアニメ研究会の部室。アニメ部員がたてこもっている。

田中がカメラを回し、部員たちがカメラに向かって、ガンダム風の演説をしている。

宮下 機械の身体を手に入れ、精神のほとんどを二次元の世界で暮らせるようになったわれわれは、人の革新の道をあゆんでいるニュータイプである。われわれは、政治的にも経済的にも、規制をうけるいわれはないはずなのに、あろうことか生徒会は、我々の活動を規制しようとしている。

斎藤 が、しかし、そんなことに屈する我々ではない。新たな体制を自らの手で獲得しなければ、命をもたされた動物にもなれない。われわれは、学校体制とそれに関与する組織の利益のために生きることではなく、あたらしい種として、主権を獲得するニュータイプにならない。

ドアの壊れる音。

山崎 諸君、聞こえるだろうか。生徒会の指示で、他の生徒たちが我々の聖域であるアニメ研究会の部室のドアをこわそうとしている。だれもこの我々の不当な状況に耳を貸そうとせず、生徒たちも皆生徒会のいいなりだ。そう、我々は知っている。奴らはまるで魔女のごとく様々な手段で生徒たちの人気を集め、その人気と権力で学園を制圧する、独裁的な支配者なのだ。しかし、我々は屈しない。我々は、

ドアが完全に破壊され、神崎まりあ、天王寺あやめ、早乙女えりか、近藤里美が現れる。

あやめ 山崎明、宮下純一、斎藤努、田中佑太、みなさん、おそろいですね。

石橋 や、やめる、はいつてくるな。我々の聖域に。

宮下 そうだ。

あやめ あなたたちは生徒会執行部の通告した活動停止の処分を無視し、あろうことか部室に立てこもって抵抗しました。これは学園に対する反逆です。よって、この部室の返還を命じます。

山崎 拒否する。我々アニメ研究部の活動は、スポーツとおなじように尊いものだ。運動部の大会優勝と同様、我々のアニメクイズ選手権の全国優勝も、表彰されてしかるべきである。にもかかわらず我々は、集会で辱めを受け、活動停止を命令され、あまつさえ、サンクチュアリである部室まで強奪されそうになっている。なぜだ！

まりあ ……坊やだからさ。

ア二研 は！！

田中 いまのは、もしや……。

斎藤 名台詞オブ名台詞とはいえ、きさまが一体なぜそれを。

あやめ 何、いったいどうしたというの。

まりあ この方々とお話するにあたり、少しだけお勉強しましたの。

宮下 勉強した、だと。そんな

山崎 まちたまえ。……アニメを、見たのか

まりあ ええ

石橋 全シリーズだろうな。

まりあ もちろん。

山崎 ほう。

齋藤 どうだった。

まりあ あなた達の言うとおりに、すばらしいものもあるのは、認めます。

山崎 そうか。

あやめ 生徒会長！

しかし、アニメが素晴らしいからといって、あなた達アニメ研究会の活動が素晴らしいかという話は別です。はっきり言ってあなた達の活動は全くもって素晴らしいくない、というよりもむしろ害！精神や肉体を成熟させていく力をもつスポーツにくらべ、双方を衰えさせていつているとしても過言ではありません。それを示しているのは、いまのあなたたちの幼稚な態度。

宮下 幼稚な態度だと？

まりあ 周りの迷惑や人の目を気にしないその態度はとても成熟した大人の態度とはいえません。

田中 迷惑なんか掛けてないじゃないっすか。

えりか え？迷惑ですよ。なんか、ふつうに。

田中 は、なにがすか。

えりか その制服、これ以上ないほどのダサい着こなしが。そしてその妙なリュックが。その痛いグッズが、そのメガネが、髪型が、迷惑なんです。一緒にされたくないんです。存在が、学園の秩序を乱すんですほんとに。

田中 な……、

まりあ というように、校内の生徒から多大なクレームがよせられています。

山崎 ふ、稚拙ないがかりだ。だいたいお前たち生徒会のいう維持すべき秩序とはなんだ。モテ属性のリア充だけが価値ある人間としてが力を持ち、そうでないものは虐げられる、そういった下らぬスクールカーストのことか。だとしたら我々はそれに大いに抵抗する。我々は、お前らとは別の次元に生き、違う価値観をもっているニュータイプであり、それを誇りに思っているからだ。

ア二研 部長！！

宮下、齋藤、田中、拍手をする。

えりか ちよつと、なんか、なにいつてるかわからない。

里美 すごい。きもい。

あやめ 確かにすごい。匂い立つようなキモオタ感だわ。

まりあ なるほど、あなた達の想像力あふれる主張はわかりました。では大いに抵抗してください。手始めに、ここにある全てのアニメ、漫画、ゲーム、フィギュア、トレーディングカードを没収します。

ア二研 な、なにいい。

石橋 そ、そんな、

田中 ひでえ！

齋藤 まさか、そんなことがゆるされていいわけがないだろう！！

まりあ いいえ。学園内でのこういうったもの持ち込み、鑑賞およびその使用は全面的に禁止されています。アニメ研究会に関しては、部活動の一環ということで特別に許可しておりました。が、しかし、活動停止を言い渡したにも関わらず、それに従わず、部室にたてこもり活動を続けた時点で、ここにあるものはすべて没収の対象とします。

宮下 きさま正気か。

山崎 とても正気とは思えん。この部室にあるコレクションがどれほどの価値があるのかわからないのか。わかりかねます。何せ、わたしたちとみなさんとは、価値観と生きてる次元が違いますので。

山崎 ぐうつ。た、たしかに私はそう言った。しかし、

まりあ えりかさん、おねがいします。

えりか はい。じゃあみなさん、もういいですよー。

山崎 きさま、何を…！

まりあ 部長さん。あなたはなかなかよくがんばったわ。でも私を敵に回すには、あなたはまだ、…未熟。

合図とともに、他の生徒達が押し寄せてアニメ研究会の部室にあるコレクションを没収していく。

宮下 なんだ、やめろ、くるなあ。

斎藤 やめろ、それは俺のプレミアのガンダムフィギュアのコレクション！

石橋 ああああ星野まなちゃんのサイン入りのトレカ、それだけは！それだけは！

パニック状態になる部室。暗転。

明りがつくと、アニメ研究会が体育座りで泣いている。

山崎 ……泣くな、諸君。君達の悲しみは痛いほどわかる。しかし、しかしここでくじけたら、あの生徒会長の思うつぼだ。

宮下 しかし部長！

山崎 思い出せ、我々の熱く崇高な魂を。たとえ活動拠点を奪われ、コレクションを没収されたからといって、あいつらは我々の魂までは奪えはせんのだ。

石橋 部長…。

山崎、立ち上がる。

山崎 立つんだ諸君。悲しみを怒りに変えて立ちあがるのだ。部室がなくとも、宝物を失っても、我々は倒れはしない。そうだろう。

斎藤 そうだ。

宮下、斎藤、田中、よろよろと立ちあがろうとする。

山崎 そうだ。諸君の大切なアニメもフィギュアもサイン入りトレカも、生徒会に奪われた。この悲しみも怒りも忘れてはならない。我々は今、この怒りを結集し、生徒会に叩きつけて初めて真の勝利を得ることが出来る。諸君よ立て！悲しみを怒りに変えて、立てよアニメ研究会諸君！

宮下、斎藤、田中、うおおおおお、と吠えながら立ちあがる。

アニメ研究会、全員で悲しみを怒りに変えた遠吠え。転換。

そこは生徒会室。まりあ、あやめ、えりか、里美がいる。資料をみながら、まりあが訝しげな表情を浮かべている。

まりあ おかしいわ。  
あやめ どうしたの。

まりあ アニメ研究会はあれから活動していないはず。そうよね。  
えりか え、はい。

あやめ 空き教室の見周りも徹底して、活動できないように厳重に注意していたはずよ。  
ええ、そう。そうよね。だというのに、わが校の生徒達が他校生にアニ高と揶揄されたという事件はなくなるどころか増え続けているの。しかも爆発的に。

あやめ なんですって。

里美 (パソコンを取り出し) ちょっと調べてみます。

まりあ お願い。あとこれ、投書なんだけど、

まりあ、あやめに投書をわたす。あやめ、えりか、読む。

あやめ これ。

えりか アニメ研究会の学園での活動再開の要請？

まりあ 匿名だから、自作自演だとおもって気にしていなかったのだけだ。

里美 あ!!

あやめ、えりか、まりあ え??

里美 アニメ研究会、現在も活動中です。

えりか うそ。

まりあ やっぱり。一体どこで。

里美 インターネット上です。これを見てください。

まりあ、あやめ、えりか、パソコンの画面を覗き込む。

別の場所にアニメ研究会が浮かび上がる。

齋藤 ドーもーこんにちは。アニ高こと聖絢爛高校のアニメ研究会です。今日はですねこちら「恋して学

園パラダイス」、略して「恋パラ」のゲーム実況をやっていきたいと思います。

まりあ これは一体……、

里美 インターネットでのゲームの実況です。

まりあ ゲームの実況？

里美 わたしもよくは知らないんですが、自分のゲームプレイを実況したりしながら配信するみたいです。

えりか このひとたち、アニ高って自分で名乗ってないですか。

あやめ ゆるせないわね。

里美 ちなみにそれを見てる人はコメントを書きこむことができるんですが、書きこむと、文字が流れて、

あ、これです。「きたー、アニ高アニ研きたー!!」

えりか 「はじまった!! たのしみ。こいつらホント好き。」

齋藤 わーありがとうございます。





里美 「おおおおおおおおお」

田中 あーうまつちやった。

えりか 「人権侵害ひどすぎわろた。」

里美 「うちの学校はそういう学校。」

えりか 「リア充以外はクズ扱いです。」

まりあ ……これ、うちの生徒が書き込みしてるの？

里美 わかりません。でも生徒の書き込みも、あるとおもいます。

あやめが見ている携帯から、「いま我々アニメ部は学園の生徒会に不当に活動停止を言い渡され、それ  
していま、まさに強制的に、部室を退去させられそうだ。しかし我々は屈しない。」という声が聞こ  
えてくる。

あやめ 動画日記、すごい再生回数。

里美 「アニメ研、その中で超がんばってる。希望の星。」

えりか 「今の生徒会は独裁政治。おまいらには正直期待している。」

石橋 その期待、応えちゃいます！

まりあ、パソコンを停止させる。

アニメ研究会、停止する。

まりあ ……これが、棲んでる次元の違う彼らの力。

あやめ やつてくれるわね。

里美 これは、やっかいですね。

えりか どうしましょう。

まりあ 甘く見ていました。とりかえしがつかないことになる前に、彼らを支配下に置く必要があります。

あやめ そうね。でもおそらく、今までのやり方では彼らに通用しないことは確か。

まりあ ええ、しかし、これは学園全体を揺るがしかねない事態です。私達はどんな手段を使っても、アニメ研究会をしとめなくてはなりません。策を、練りましょう。

あやめ、えりか、里美 はい。

暗転。

明りがつくと、そこは生徒会室のまえ。アニメ研究会が結集し、山崎が演説をしている。

山崎 アニメ研究会諸君。あのいま美しい生徒会執行部から、謝罪をしたいという連絡が届いたあの日

から、我々は勝利に酔い、狂喜乱舞し、いまこの生徒会室の扉のまえまでのこのことやってきた。

しかし相手はあの生徒会執行部。血も涙もない魔女たちの集団だ。油断は禁物である。諸君、くれぐれも、

生徒会室の扉が開く。

まりあ 部長。きこえてますわ。

山崎 生徒会長。

まりあ どうぞ、お入りになって。

アニメ研究会、生徒会室に足を踏み入れる。  
生徒会執行部の全員がいる。

まりあ ようこそ、わが生徒会室へ。歓迎いたしますわ。

石橋 おおう、な、なんだこの空間は。

田中 ラグジュアリー。なんだかラグジュアリーだ!!

齋藤 (怯えて) い、いい匂いがする。床がふかふかする。

あやめ アニメ研究会のみなさん、先日は大変失礼いたしました。私たちが少しやりすぎたと反省  
しましたわ。

山崎 その反省は、言葉だけでなく、態度で示してもらえるんだろうな。

あやめ もちろんですわ。

えりか あなたたちから預かっていたアニメ、フィギュア、なんかよくわからないカード類などすべてあな  
た達に返却します。

ア二研 な、なんだって!!

山崎 それはほんとか。

あやめ ええ。

里美 それからお詫びとして、人気声優のサインがはいったカードや、限定と呼ばれていたフィギュアな  
ど、なんか手に入りにくそうなものを用意しておきました。

齋藤 そ、それは!!

石橋 超レアな限定フィギュア、そして、そっちに持つてるのはまさか、豊崎愛理ちゃんのキラキラサイ  
ンが入ったトレカ……!!

田中 まさか、まさかこれを生で拝める日がくるなんて……!!

里美 必要ないようでしたら処分します。

宮下 馬鹿な! 必要ないことなどあるものか!

齋藤 そ、それを、全部我々にくれるというのか。本当に。

あやめ ええ。もし卒業まであなたたちがおとなしくしていてくれるのであれば。

齋藤 なに。

宮下 おとなしく、とはどういうことだ。

あやめ 部室は、生徒会室の下の地下室に設置します。部活動はそちらで内密におこなってください。また、  
WEB上での活動、クイズ選手会への参加などはご遠慮頂きますようお願いいたします。

宮下 くっくっく、なるほどな、内密には活動を許可するが、表向きには活動停止にしますま、外部には  
俺達の情報が出ないように、生徒会で管理すると、そういうことか。

あやめ ええ、しかし活動には生徒会が全面的協力します。もちろん、活動予算の相談にも乗らせていた  
きますし、それに、あなた達には価値があるというこいう、入手しにくいもの、など、私達のル  
ートで手に入れて差し上げることも可能。

里美 ちなみにこの程度のものならいくらでもお渡しいたしますわ。

山崎 ほ、ほんとうか、本当に卒業までおとなしくさえていけば、その激レアのトレカ、フィギュア、直筆のアニメの原画など、そういうものがいつも我々の手に入るといえるのか。

あやめ ええ、約束しますわ。

田中・齋藤・宮下・石橋 ごくり。(部長を見る)

山崎 ……だが断る。

田中・齋藤・宮下 言うと思った——！

山崎 このわたしが最も好きな事のひとつは自分で強いと思ってるやつに『NO』と断ってやる事だ！

田中 くー、もったいない。もったいないけどかっこいい！

齋藤 そこにしびれるあこがれるウ！

山崎 今日の都合で魂を売った人々の決定など、明日にでも崩れるものさ。生徒会執行部、我々は貴様ら

には屈しない！

あやめ ふふ、たしかに、そこがあなた達の魅力なのかもしれないわね。

山崎 え。

あやめ 頑固な男って、わたし、きらいじゃないわ。

なんだなんだ。

里美 わたしも、あなた達みたいに意思が強い男の人、初めて会ったかもしれません。

田中 え、いや、別にそんな、

えりか わ、わたしだって、別にあなたたちが仲よくしたいんだったら、してあげてもいいんですの、よ。

石橋 あ、いや、あの、ぼく、

里美 いや、ですか。

齋藤 いや、いやとかじゃ、全然、ないですけど、あの、

あやめ ねえ、わたしたち、あなた達のこと誤解していましたの。もしよかったら、これから、わたしたちと仲良くなっていただけませんこと。

宮下 まあ、あの、その、そうですね、たしかに、あの、ぼくたちのほうも、なんというか、あ、あ、う  
ああああああああ

アニメ研究会、突如全員叫びだす。

アニメ研 あああああああああ

アニメ研究会、ポーズをとる。ポーズに合わせたかっこいい効果音が鳴り響く。

アニメ研 だが、断る！

あやめ・えりか・里美 な、なんですすって！

山崎 だまされん。だまされんぞ——！我々は、三次元の女が自分に興味をもたないことを熟知している。

そして我々も、三次元の女に見切りをつけ、二次元の女のすばらしさに目覚めたのだ。あの完璧さを知る我々に、もうおまえた三次元の女の誘惑など効かぬわ！

あやめ く、この変態が。

里美 オタク。

えりか きもい。死ぬ！

山崎 はっはっは、なんとでもいうがいい。

あやめ、えりか、里美が怯える中、まりあが悠然と立ち上がる。

まりあ やはり、ひと筋縄ではいかないようですね。

あやめ・えりか・里美 生徒会長！

まりあ 部長さん。あとは私が相手になります。

山崎 でたな。生徒会長。しかし、貴様とて三次元の女であることは変わりあるまい。俺たちは、決して

お前には屈しない。

まりあ あなた達が三次元の女に興味がないのはわかったわ。でも、これではどうかしら。

生徒会長がとつぜん服を脱ぐ。

あやめ・えりか 生徒会長！！

里美 だめです、そんな、学園で、はれんちな！

アニメ研究会、動揺し、おろおろする。

山崎 (動揺しながら) ふ、色仕掛けか。つまらん。我々がオナニーの時に観るのはもちろんAVではなく

エロアニメ。我々の性欲は今や生身の女には反応しない。完璧に計算されつくされた不自然なフォルム、演技している声優の声、作られた記号にしか性的興奮を覚ええない、生殖のための性欲から脱却された、機械の身体の持ち主なのだ。三次元の女の裸の一つや二つ……(ちらりと見る) な、なに！！！

生徒会長は服を脱ぐと、ラムちゃんのコスプレをしている。

音楽が流れる。

生徒会一同 そ、それは

アニメ一同 それは「ラムちゃん」！！

まりあ あなたたちが八〇年代アニメを特別に信仰していることは、没収したさまざまなものから調査済み。

そして、三次元の女には性的興奮を感じなくても、アニメのコスチュームを着ている女には、何かしら感じるものがあることも、調査済みです。

宮下 正直再現度が高いとはとても言えない。しかし、

斎藤 しかし、なんであろう、この湧きあがる気持ちは。

田中 物凄いギャップ！ギャップ萌えがすぎえ！

まりあ できればこれだけは使いたくなかった。でもこの私にここまでさせたこと、賞賛に値します。

山崎 く、こつちをみるな。

宮下　これが、リア充たちを支配し、頂点に君臨しつづけた者の実力か！

まりあ　私はあなた達に敬意を払う。では、いきますよ。

山崎　や、やめる。くるな！

まりあ、かわいいポーズをとる。

まりあ　「だーりん、浮気はゆるさないっちゃ☆」

攻撃音。

ア二研　ぎゃああああ。

アニメ研究会、ダメージを負う。

まりあ　「ダーリン、うちのこと、きらい？」

攻撃音。

ア二研　ぐああああああ。

アニメ研究会、ダメージを負う。

山崎　よ、よせ、やめる。

まりあ　「土曜の夜はこどもをつくるっちゃ！」

爆発音。

ア二研　うああああああああ。

アニメ研究会、爆発する。

まりあ　ふ、これであなた達はもうわたしに逆らうことなどできやしない。さあ、わたし達生徒会執行部に忠誠を誓うがいいわ。

山崎、よろよろと立ちあがり、

山崎　さすがだな。生徒会長。その戦闘力はみとめよう。正直心が折れそうだ。だが、俺たちはここで折れるわけにはいかない。そうだろう。

ア二研　そうだ。

山崎　そうだ。俺たちはコスプレが大好きだ。だからこそ、エセコスプレイヤーに心を折られるわけには

いけない。コスプレにとって一番大切なのは、コスプレを好きな気持ち。キャラクターへの愛。憧れ。そうだろ。

ア二研

そうだ。

コスプレは自分を隠すことじゃない。他人にこびることじゃない。自己満足だ。自己解放だ。自己実現だ。他者のまえで自分をさらけ出す。その勇氣。

解放した自分を、満足した自分を、本当の自分を、他者のまえでさらしあう。それこそが、真のコスプレ。自己を満足させないで、他者を満足させようとして行うコスプレなど、コスプレの風上にも置けない行為。ちがうか。

ア二研

そうだ。

山崎  
そうだ。我々は、ここで膝を折るわけにはいかない。

（生徒会長にむかって）生徒会長よ。私もあなたに敬意を払おう。

しかし、我々はあなたに屈しない。我々が愛するのは、誰の目も恐れず、好きなものと自分の間で素直に生きる自由の心と、解放した自分を他人の前にさらしあうその勇敢さ。……だが、あなたのラムちゃんにはそれがない。あなたのラムちゃんは偽物のラムちゃんだ。だから俺たちはあなたには負けない。

まりあ

……なるほど。あなたこそが真のコスプレイヤーというわけね。

山崎

え？

確かにわたしはあなたのように、その機械の身体に引きこもったり、実際には存在しないアニメの女の子にいやらしい想いを抱いたり、三次元とのコミュニケーションを拒絶して頑張って生きている人間を小馬鹿にしてみせたりはしていません。あなたが体現するその姿こそが、誰の目も恐れずに好きなものと自分との間で素直に生きる自由さだというならば、なるほど私は真のコスプレイヤーではないのでしょうか。

山崎

いや、そういうことでは、

まりあ  
解放した自分を他人の前にさらす勇敢さが、それほど醜いものならば、わたしは偽物のラムちゃんんで結構。真のコスプレなどまっぴらごめんだわ。

山崎

真のコスプレとはそういうことではない！ そもそも我々の機械の身体は別にコスプレではない。

まりあ

ではあなたは生まれたときからその機械の身体だったの。

山崎

え、いや……、

まりあ  
今日ここに至るまでに色々なことがあったでしょう。嬉しいことも楽しいことも、傷ついて逃げ出したくなることも、色々あったのでしょう。そしてあなたには、色々な可能性があった。人の気持ちに配慮すること、現実逃避しないで努力すること、生身の身体で人と向き合うこと、それがあなたにも可能だった。にもかかわらず、機械の身体というフィクションを身にまとい、現実から目を背けることを選んだその姿が、コスプレでなくて何なの？

山崎

……。

まりあ

わたしはあなたとは違う。わたしはこの現実の中で他人と向き合って生きてきた。

努力して、勉強して、身なりを整えて、綺麗な言葉遣いを覚えて、表情を明るくして、学園の生徒として恥ずかしくない自分であり続けた。偽物のコスプレ？ 大いに結構。わたしは丹念に磨き上げたこの姿を誇りに思います。

山崎

……そっくりそのまま返そう。私も機械の身体に誇りを持っている。現実逃避、はしているかもしれない。しかし、何の努力もしていないわけではない。我々が常に偏見にさらされ、虐げられる弱い立場にあることは、偏見をもち虐げる側のあなた方には想像もできないことなのだろうか。我々はこの機械の身体を保つために、絶え間ない闘争に身を置く覚悟を決めている。コスプレ？ なる

ほど、コスプレかもしれない。しかし、生徒会長、あなたのその生徒会長という立場もまた同じ意味でコスプレであろう。

まりあ 生徒会長はコスプレではありません。

山崎

そっくりそのまま返すと言った！ あなたは生まれたときから生徒会長か？ あなたは本当に現実逃避しないで生身の人間と向き合っているか？ 生徒会長という立場に引きこもって、多数の生徒が求めているというただそれだけの理由でもって、我々アニメ研究会を、あるいはそれ以上に多くのオタクたちを、十把一絡げに全否定してみせているだけではないのか！ あなたがいつ我々と向き合った？ 我々の訴えに耳を貸したことがあったか？ あなたは常に我々を小馬鹿にしていた！ どうせあなたにも色々あったんだろう？ 傷つくことが色々あって、あれこれ努力して誰からも認められるその生徒会長というコスプレに身を包まなければ生きていけないような切実な理由があったんだろう。そう、好きに生きればいい！ ただ一つ言っておく。あなたの表情が明るく見えたことなんて、一回もなかったぞ。

まりあ、言い返せない。何か言おうとするが、何も言えずその場を去る。

あやめ

生徒会長！

まりあを追うあやめ、えりか、里美。山崎、その後ろ姿を目で追ってしまう。

齋藤

やってやりましたな。部長！！

石橋

かつこよかったす！マジリスペクトつす！！

宮下

みたか、悔しそうな生徒会長のあの顔を。我々は、ついにあの生徒会に勝利した。

山崎

そうだな。

宮下

そうだ！！

田中

あの、ちなみにいまの、ばつちり撮れてましたから！

山崎

え。

田中

動画日記「魔女からの迫害の記録」第二弾！いまのラムちゃん、隠しカメラで、ばつちりつす！

宮下

くつくつく、でかしたぞ田中。では部長、いまこそ計画に移ろうではありませんか。

山崎

え。

齋藤

ついにですか。

宮下

そうだ。ついにだ。齋藤くん、いま我々を支持している学園内のオタク達の数はいかほどかわかる

かね。

齋藤

正確な数はわかりませんが、しかし、あのいまましいイケてる運動部、また華々しい文化部以外の

部活やクラブ、同好会はじわじわと我々を支持しております。

石橋

主に鉄道研究会、アイドル研究会、ミステリー小説同好会、占星術研究会、中南米音楽研究会、漫

画クラブ、無線部、などであります。

宮下

よろしい。諸君、革命だ。このラムちゃんの動画で城を一気に攻め落とす。あの生徒会長の破廉恥

な動画に、上層部は失望し、生徒会は後盾を失うはずだ。

田中

そうならもうこっちのもんっすね。

宮下

その瞬間はこの学園が本当のオタ高に生まれ変わる瞬間である。この学園に我々オタクの権利と自

由をみとめさせる時が来たのだ。そして他校にも生徒会長までがラムちゃんになるオタ高として、

名をとどろかせるのだ。

山崎 いや、しかし、  
宮下 ん？

山崎 ……いや、  
宮下 どうした部長。

山崎 なんでもない。その、たのしみだ。  
田中 ですよ。じゃあ部長、あれやってくださいよ。

山崎 え。

斎藤 ああ、あれ、ぜひ、おねがいします。

石橋 いいですね。やってください。

宮下 そうだな。景気づけに、頼む。

田中 はい、じゃあ撮ります。（カメラを構える）お願いします。

山崎、雰囲気を押されて演説をはじめ。

山崎 我が…忠勇なる騎士たちよ。見ただろうか、あの生徒会執行部の痴態を。あのラムちゃんを。彼女たちのメンツは、いま、わがアニメ研究会によって、宇宙に消えた。その輝きこそ、我らアニメ研究会の正義の証しである。決定的打撃を受けた生徒会執行部に、いかほどの戦力が残っているかと、それは、すでに、形骸である。

あえて言おう、カスであると！

宮下、斎藤、田中、拍手する。山崎、調子が出てくる。

山崎 それら軟弱の集団は我々を「現実の女と向き合わずに機械の身体に逃げ込んだ臆病者」と罵った。しかしそれはちがう。二次元の女性は三次元の女の代替品ではない。進化形なのだ。私は断言する。我々こそ、その進化に対応しているニュータイプ。優良種である我らだからこそ、あの三次元の魔女たちと対峙し、学園を救い得るのである！

宮下、斎藤、石橋、田中、雄叫びをあげ、盛り上がって去る。

残る山崎。  
間。

山崎 ……だが、諸君、……ほんとうにそうだろうか。私はもうぶっちゃけさつきから、あの生徒会長のラムちゃんが全然頭から離れない。

別の場所にまりあが現れる。

まりあ あの男のことが全然頭から離れない。ちがうわ。そんなわけない。わたしがあんなやつ、気にする必要なんてない。そうよ。だって相手はアニメ研究会部長よ。（絶望して）ああ、アニメ研究会部長、アニメ研究会部長、どうしてあの男はアニメ研究会部長なの。

山崎が、まりあに気がつく。



まりあ  
いえ、肩書きが違っててもあの中身に違いはないはず。所詮あの男はオタクの引きこもりの臆病者。  
現実逃避をして、アニメをみて、アニメのイラストの女の子相手ににやにやしてる気持ちの悪い男。  
そんな男、

山崎  
ほめ言葉として頂戴しよう。

まりあ  
アニメ研究会部長！……え？え？うそ、どこからきいていたの。

山崎  
「あなたはどうしてアニメ研究会部長なの」から。

まりあ  
立ち聞きなんて…、ずいぶん趣味がいいのね。

山崎  
そっちが、勝手に、しゃべっていたんだ。私の悪口を。

まりあ  
それは、

山崎  
まあ、べつに、三次元の女にどう思われても、かまわんがな。

まりあ  
そう。

山崎  
だいたい、どうしたんだ、こんな、非常階段なんかで。

まりあ  
私はべつに。あなたこそ、どうしたんです、こんな非常階段なんかで。

山崎  
べつに、ちょっと、ぼーっと考え事をしてあるいただけだ。ラムちゃんのことを考えていたわけでは決していない。あなたのラムちゃんは、偽物だ。価値がない。

まりあ  
もういいわよ。その話は。

まりあ  
ああ。

山崎  
わたしだって、あなたなんかはどう思われてもかまいませんし。

山崎  
ああ、そうか。そうだな。

まりあ  
ええ。

山崎  
じゃあ。

まりあ  
あ、

山崎  
え。

まりあ  
あの、

山崎  
なんだ。

まりあ  
あなた、私の表情が明るくみえたことなんて一度もなかったってそういったわね。

山崎  
ああ。確かに言った。

まりあ  
わたし、あなた以外のひとに、そんなこと、言われたことないわ。

山崎  
だから？

まりあ  
だから、あなたの思い過ぎじゃないかとおもって。

山崎  
そうか。じゃあ、そうなのかもしれないな。

まりあ  
適当なこといわないで。そんなこと、おもってないくせに。

山崎  
べつに、おもってないことはない。

まりあ  
ちがうの、もうわかっているわよ。わかっているわよ。みとめる。わたしは、生徒会長として、本当に、心からわらえたことなんて、ない。ないわ。

山崎  
……そうか。

まりあ  
そうよ。満足？

山崎  
それはたぶん、わたしもそうだ。

まりあ  
え。

山崎  
わたしも機械の身体を手に入れて強くなるはずだったのに 気がついたらただの臆病者になってしまっていたような気がする。

まりあ 偽物の、コスプレをしている。

山崎 ああ。

まりあ 脱いでしまえたら、楽なのかしら。

山崎 え。

まりあ コスプレを、脱いでしまいたいって、そう思うことはある？

山崎 いや、ない。

まりあ そう。

山崎 ああ。わたしはいまのままでもいい。なんというか、三次元の人間とちゃんと関わるようには生きてきていないのだ。そういう仕様にはなっていない。だから、いい。このままでもいい。

まりあ どうして？怖いから？

山崎 ああ、そうだ。こわい。

まりあ そんなの、わたしだって。

山崎 いやちがう。次元が違う。あなたとは。あなたにはわからない。私の気持ちは。たとえば、わたしのことを好きになるひとなど、誰もいない。わかるか。

まりあ わからないわ。すきになるひとだっているかもしれないじゃない。

山崎 ならないんだ。わかっている。

まりあ わからないわよ。

山崎 わかるんだ。

まりあ わからないわ。(山崎をみて) あなたに、凶星を突かれて、あなたのことが気になって仕方がないって女の子がいるかもしれないじゃない。

山崎 (まりあをみて) ……もし、そんな女の子がいたって、その女の子だって、すぐ嫌いになる。

まりあ わからないわ。

山崎 わかる。

まりあ どうして。

山崎 映像を、とった。

まりあ え。

山崎 あなたのラムちゃんの映像だ。隠しカメラで撮影した。今頃もうインターネットに流れているだろう。そしておそらく、もうかなり拡散されている。そして、これから多分、あなたは酷い目にあう。酷い目って。

山崎 まず、すでにインターネット上であることないこと言われているはずだ。そろそろ個人情報も流出する。もちろん学園でも大きな問題になるだろう。それをいいことに、わたしたちは、正義の名の元に集結する。アニメ研究会を水面下で支持していた他のオタクの部活と集結して、あなたを吊るしあげる。あなたが我々の名前を呼んだように、今度は我々があなたの名前を呼ぶ。でも私は、そのときのあなたの気持ちなんて考えない。考えられない。私はもう人の気持ちなんて考えられない。そういう人間なんだ。そうやって生きてきた。だから今更それを、全部脱ぐことなんてできない。

まりあ そう。でも、わたしはそんなことであなたのことを嫌いになんてならない。だってお互いさまじゃない。

山崎 わたしだって、いままで散々あなたの気持ちなんてかんがえてこなかった。それに、わたしはあなたがひとの気持ちをかんがえられないなんておもわない。だってあなたは私の気持ちを、わたしを見抜いてくれたじゃない。

山崎 生徒会長。

まりあ でもあなたのいうとおりにね。わたしも、無責任に全部脱ぎたいなんていわない。だって、わたしが

選んできたんだもの。このコスプレを。

わたしは……、

山崎  
わたしは、心から笑える生徒会長になる。あなたは、オタクであることを心から誇れる？

全校集会になっていく。

生徒会のメンバーの名前が呼ばれる。

斎藤  
神埼まりあ、天王寺あやめ、早乙女えりか、近藤里美、

生徒会がアニメ研究会を中心としたオタクの部活の集まりに糾弾されている。

斎藤  
みなさん、おそろいですか。

宮下  
さて、生徒会執行部のみなさん。アニメ研究会をはじめとし、アイドル研究会、ラジオ研究会、鉄道クラブ、無線部、から質問です。

石橋  
あなたたち生徒会執行部はあらゆる卑怯な手をつかって我々オタクを抑圧してきました。

斎藤  
その証拠として、生徒会長がラムちゃんの姿でアニメ研究会を制圧しようとした映像が今インターネットで流れています。

田中  
また生徒会は以前、本校がオタ高と呼ばれることになった原因として我々を吊るしあげ、厳しく批判していたが、ネットで写真があがったことで、自らオタ高の名前を大きく広めたようでもありません。

斎藤  
PTA、教育委員会からも学校に対するクレームが殺到しています。

宮下  
生徒会は以上のことに関してどう責任をとるおつもりか。

まりあ、前に出る。

まりあ  
たしかにわたしたちは、アニメ研究会の声をおさえようと躍起になりました。そしてわたしはラムちゃんにもなりました。なぜならば、それがこの学園の多くの生徒達の望みだと思っていたからです。でも今は反省しています。

しかし反省をしているのはラムちゃんになったことではありません。

私は学園の望む生徒会長になろうとするあまり、私自身を失い、考えることも感じることも手放してしまった。そしてわたしは学園にとって少数の声を、考えることもなく、胸を痛めることもなく、平気で切り捨ててきてしまった。

それは、生徒会長としてあるべき姿とはいえないでしょう。

さとみ  
生徒会長！

えりか  
一体どうして。

あやめ  
やめてください。

まりあ  
生徒の模範であるわたしが、みなさんの前で生徒会長という肩書に侵食され、自分自身を失い、目の前の人間と向き合うことをやめてしまったこと、それをわたしは謝罪します。もしかしたら、今日でわたしが生徒会長でいるのは最後になるかもしれません。ですが、最後だとしても今、今まですることができなかった生徒会長としての仕事を、自分自身として、やりとげたい。生徒会長とし

て、神崎まりあが、いままで聞きこぼしてきたみなさんの声を聞きます。いいたいことがある人は、わたしに声をあげてください。

あやめ　まりあ！

さとみ　それはオタクの声もきくということですか。  
えりか　まさか。

山崎　生徒会長。

ア二研　部長！

山崎　我々アニメ研究会は二次元の世界を愛好し、精神のほとんどを二次元で過ごしてきた。

ア二研　そうだ。

山崎　それは、恥ずべきことだとはおもっていない。我々の誇りだ。

ア二研　そうだそうだ

山崎　しかし、二次元を愛し、その世界を守ろうとするあまり、我々は、わたしは、三次元の人間をあま

りにないがしろにしすぎた。それは、我々オタクとしての本来あるべき姿じゃないはずだ。

ア二研　ん？

山崎　ここにいるわが同士たちに問う。あなたたちは、自分の好きなものを言いわけに、他人をないがしろにしているか。自分の殻にひきこもり、誰かを傷つけることに鈍感になっていないか。もしそうであるならば、それは真のオタクとして、心から誇れる行為ではない。

だから生徒会長、アニメ研究会の部長として、私はあなたに、謝罪する。

我々は、生徒会長のラムちゃん姿の映像を隠しカメラで撮り、インターネットでばらまいた。それをされたあなたはきつと、沢山嫌な目にあって、恥ずかしい思いをしただろうし、悔しい思いもしただろうし、とても傷付いたことだろうし、怒ってもいるかもしれない。すまない。すまなかった。申し訳ない。

ア二研　部長。

まりあ　部長……。

山崎　それから、そのラムちゃんについてだが、われわれは、自己満足ができていない無価値な偽物のコスプレだとののしった。しかし、他者の誰かの満足や期待に最大限にこたえた成果物であるならば、それに価値がないなんてことはいえない。

断言しよう。あのラムちゃんには価値があった。

なぜならば、わたしはあのラムちゃんが大好きだ。ぐっときた。すばらしかった。すごくよかった。超似合ってた。最高だった。とても、かわいかった。

まりあ　アニメ研究会部長。貴方にそう言われて、すごく……うれしい！

まりあ、山崎、笑顔で見つめ合う。

幕

【引用】

機動戦士ガンダム

機動戦士Nガンダム

ジョジョの奇妙な冒険 第1部

ジョジョの奇妙な冒険 第4部

うる星やつら